



子供の幸せを考える年

国際児童年



国際児童年1979

今年、総理府が全国の小学五・六年生と中学生を対象に行った世論調査「子供の意識」をもとに、子供たちの「心の風景」を探ってみました。

今年、総理府が全国の小学五・六年生と中学生を対象に行った世論調査「子供の意識」をもとに、子供たちの「心の風景」を探ってみました。

今年、総理府が全国の小学五・六年生と中学生を対象に行った世論調査「子供の意識」をもとに、子供たちの「心の風景」を探ってみました。

いま、子供たちは、何を考え、どんな将来の希望を持って勉強に、遊びに、毎日の生活を送っているのでしょうか。

昨年、総理府が全国の小学五・

悩み・心配ごと

勉強・進学・自分の将来

子供たちは、日ごろどんなことで悩んだり、心配したりしているのでしょうか。

これを学年別にみますと、「いま困ったり、心配していることは何か」との問いに、小学校五・六年生では二二%が「勉強のこと」をあげ、中学生では四五%が「進学(受験)」と答えています。

楽しいとき

「テレビを

見ているとき」

子供たちが「楽しいと思う」のは、何をしているときでしょうか。小・中学校全体で見ますと、約半数の四八%が「テレビを見ているとき」と答えています。次いで「友だちといるとき」四四%、「スポーツをしているとき」三六%と続いています。

他人の子もしかろう



茅 誠 司

(国際児童年事業推進会議副議長)

国際児童年によせて

西ドイツでの話です。公園のベンチで、お母さんが編み物をしている。そばで遊んでいた子供が、いつの間にか一人歩きをして、少し離れたところで、何かワルカをしたのでしよう。編みかけをわきに置いた母親は、ツカツカと子供のところに歩み寄って、ひと言注意したあと、そばにいた年配の男性に「なぜ、しかつてくれないのですか」と、強い口調でいったと